

次世代情報基盤としての名古屋大学情報ポータル

梶 田 将 司

私が所属する名古屋大学情報連携基盤センターの情報基盤システムデザイン研究部門は、(1) 情報基盤システムのアーキテクチャデザインの研究と(2) 大規模情報基盤システムの研究開発を研究の柱として、名古屋大学の情報戦略の企画・立案・実施に積極的に貢献しつつ、学内外のユーザに対して実際に情報基盤サービスを提供することを目的とする部門である。

「情報基盤システムのアーキテクチャをデザインする」と言っても、情報のやり取りの媒体であるコンピュータネットワークを設計することが主目的ではない。もちろん、コンピュータネットワーク抜きには語れないが、コンピュータネットワークによって作られる電脳空間において我々人間が快適に活動するためにはどのような情報基盤システムを構築すべきかを考え、設計し、実現するかが、我々の部門に課されている最大の使命である。建築家は、我々人

間日々生活している実世界空間において、古い建物や他の建物との調和を図りながら、利便さ・快適さを追及し、安全で安心した生活ができる建築物をデザインする。これと同じように、電脳空間においても他の情報システムやレガシー(古い)アプリケーションシステムとの調和が図られるとともに、安全で安心した生活ができる情報基盤システムをデザインすることが必要になってきている。情報システムはその技術的レベルの高さよりも、実際に使う人に対してどれだけ配慮がなされているか、便利に使えるかがとても大切になる。我々は、名古屋大学という巨大な知的集合体の中で日々教育研究活動に邁進している学生、教職員などの構成員にとって、安全で快適な教育研究活動ができる情報基盤システムの設計・実現を目指している。この意味において、我々は電脳空間における建築家、つまり、「情報アーキテクト(建築家)」であると思っている。

図1

個人化と負荷分散のための情報基盤

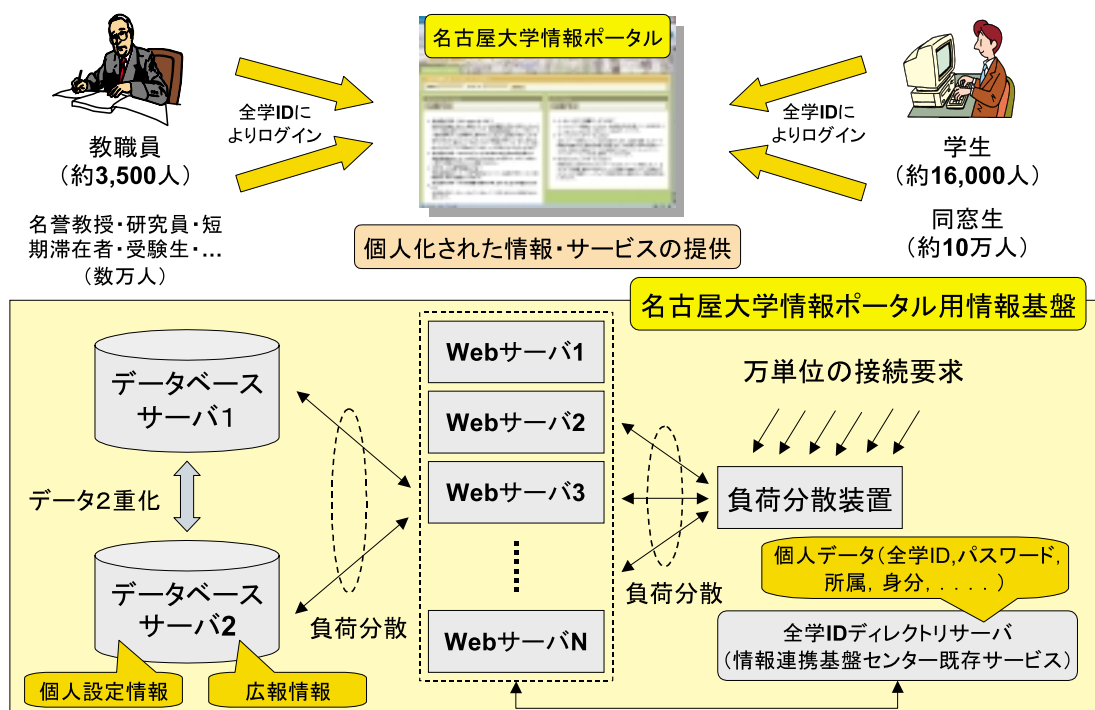


図2

ポータル技術による学内各種情報システムのセキュリティ強化

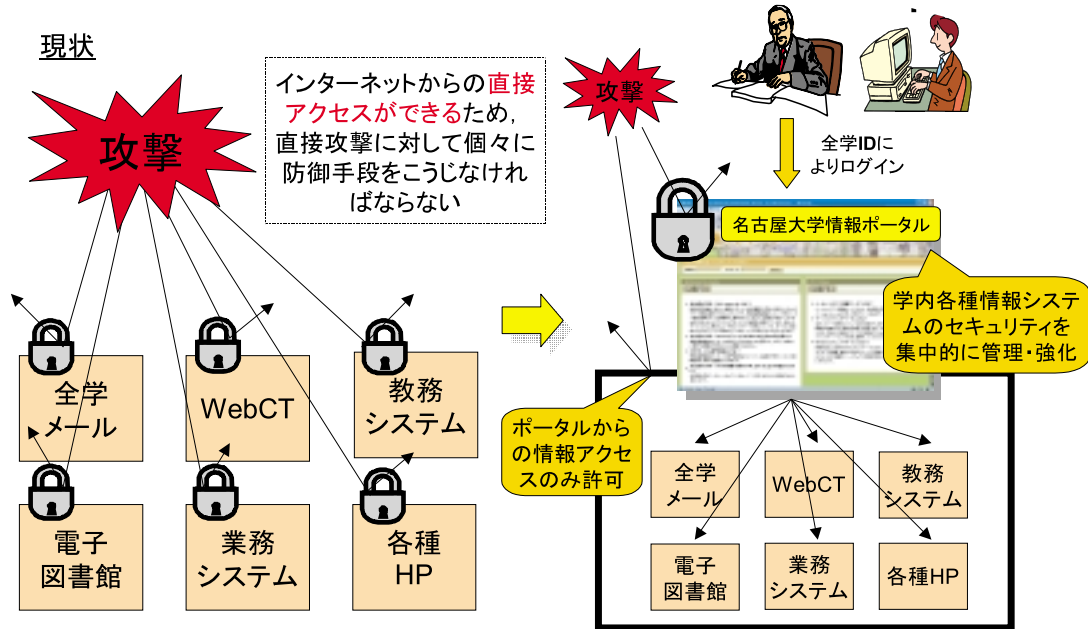
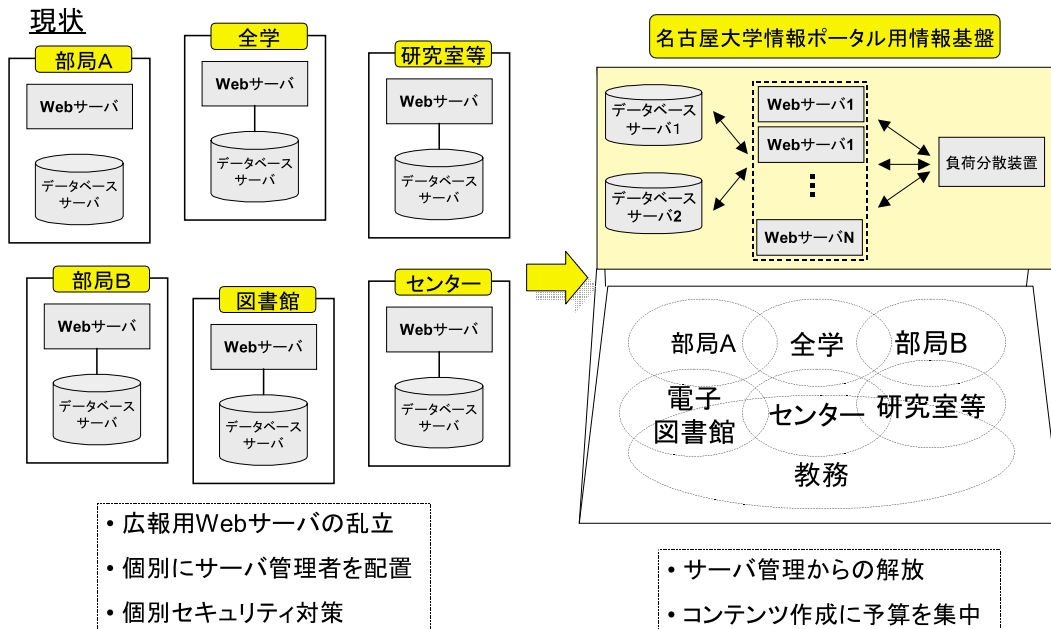


図3

広報活動の共通情報基盤の構築による冗長な情報投資の抑制

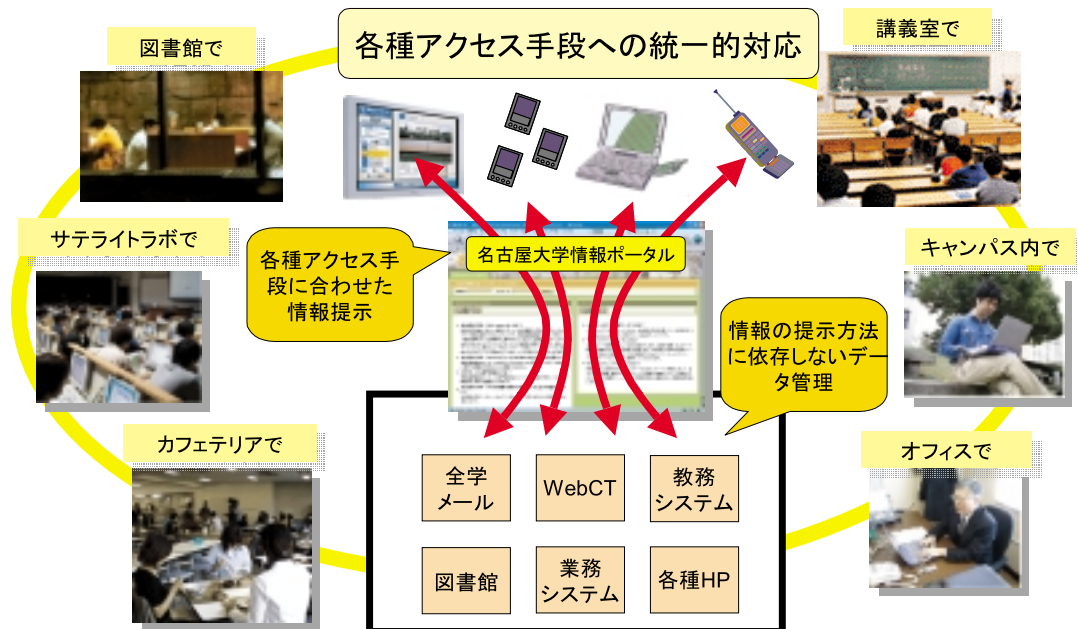


その具体的な取り組みとして、センターの大学ポータル専門委員会を中心に「名古屋大学情報ポータル」の構築を、現在、実験的に行って

いる。名古屋大学情報ポータルは、学内に散在する情報システム・情報資源を集約し、情報チャネルという細かい単位でユーザに提供する

図4

ポータル技術による学内各種 情報システムへのアクセス性の改善



ことで、ユーザごとに適切な情報を提供することを目指している。また、名古屋大学情報ポータルは単なる情報へのアクセスのポイントとなるだけでなく、学部、学科、研究室、教室、研究グループ、部活・サークル、講義など各人が所属する様々な学内コミュニティにおける他のメンバとのコラボレーションを促進する場としても機能すると考えている。

2005年春からは、これまでの実験成果をもとに次世代の名古屋大学情報ポータルを稼働させ、正式運用を開始する。特に、すでに正式運用を行っている全学 ID を用いて個人化された情報サービスをポータル経由で提供するとともに、成績投入や履修登録など高負荷が想定される情報サービスも提供できるよう、負荷分散装置、複数台のクラスター型 Web サーバ・データベースサーバを導入し、スケーラビリティのあるアーキテクチャを持つシステムとなる(図1参照)。そして、成績投入・履修登録などの教務サービスだけでなく、WebCT (Web Course Tools, <http://www.webct.jp/>) によるコース管理服务、電子図書サービスなど、学内で提供

される各種情報サービスをポータル経由でサービスを提供することにより、名古屋大学情報ポータルでセキュリティ対策を一元的に行う(図2参照)。さらには、学内の広報用 Web サーバや各種情報サービスとの資源の共用化を進め、設備・運用・保守費用面での冗長な情報投資の抑制を図る(図3参照)。このような流れの中で、各種情報サービスが名古屋大学情報ポータルに一元化されることにより、閲覧デバイスの多様化にも対応でき、その結果として学内各種情報システムへのアクセス性の改善が進むと考えている(図4参照)。

国立大学は法人化され、今後、運営費交付金は毎年配分額が少しずつ減らされる。これを乗り切る妙案は、全学レベルでの情報戦略に基づいた情報技術の導入による業務の効率化と費用対効果を考慮した情報投資の効率化しかないであろう。名古屋大学においては、その中心的な取り組みが名古屋大学情報ポータルである。

(かじた・しょうじ 情報連携基盤センター助教授)